



# 2025年万博(大阪・関西)へ 「オール関西」で盛り上げる

“ツーリズムEXPOジャパン2019”にも大きな期待

公益財団法人 大阪観光局

## 福島伸一会長（大阪国際会議場代表取締役社長）

福島会長「地域の活性化に貢献することが最大のミッション」

「未来社会のデザイン」をテーマに掲げた万博は、未来社会の「共創」を目指して日本の叡智とアイデアを集めて、世界中の人々がワクワクするようなイベントに出来たらと考えています。

を目指す動きもあり、2025年万博の大坂開催が決まったことで、そうした流れを一気に加速させる大きな弾みがついたと感じています。また、今年6月には大阪国際見本市会場（インテックス大阪）でG20サミットも開催され、世界中から約3万人が集まると言われています。こうした皆さんをわかれています。大阪のホスピタリティによるおもてなしでお迎えし、大阪だけではなく

に向けた日本の安全安心を発信できました。その関空でのC.I.Qの迅速化など、旅行者目線に基づく受入環境の一層の整備を進めなければなりませんし、関西全体での連携による強化も必要です。関西や西日本のハブとして旗振り役も担っていきたいと考えています。

――実際に取り組んできている施策などについて、お聞かせください。

資系企業が進出していない大阪では、大きな国際会議や展示会の誘致によってビジネス客を増やしたいと考えています。

——大阪観光局にとつて  
2019年を展望していただ  
すか。

福島 まず、昨年11月に20  
年国際博覧会（万博）が大阪  
開催されることが決まり、本  
嬉しく思っています。日本政  
経済界、大阪府・市のリーダ  
どオールジャパンで勝ち取つ

けてのキックオフ・イヤーということでも位置づけも加わったということでしょうか。

福島 その通りです。今年のラグビーワールドカップから始まり、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールドマスターズゲームズin関西と世界的なスポーツのメガ・イベントが続く「ゴールデンスポーツイヤーズ」の後には、2024年も

役割をどのように考えていらっしゃいますか。

費額の1割強にとどまつてゐる「食」の比率を高めていきたい。活動時間では、東京は24時まで外国人旅行者が動いているのに、大阪は22時で終わつてゐるため、お勧め店のパンフレット作成などを通じ、ナイトライフを楽しんでいただき、ナイトエコノミーの拡大につなげていきたい。富裕層へのアプローチについては、ラグビー、ワールドカップも大きな契機になら

1970年以来55年ぶりとなる「2025年万博」の開催が決定し、大きな盛り上がりの中で新年を迎えた大阪・関西。今春からの夏ダイヤでは関西国際空港の就航便数が過去最高となる見通しで、アウトバウンド需要の拡大も期待されています。「ゴールデン・スポーツイヤーズ」や「Rの開業に向けて弾みをつけた「万博」へのキックオフ・イヤー」となる2019年の展望を、大阪観光局の福島伸一会長とJATA関西支部の宇田川雄彦支部長に語っていただきました。

く、関西さらには日本をアピールする絶好の機会として活用しなければなりません。

**福島** 具体的には、(1)訪日外国人旅行者の消費額を増やすこと、(2)訪日外国人旅行者の活動時間を延ばすこと、(3)誘客の対象として富裕層に重点を置くこと、の3つがあります。消費額の拡大については、「食の都」「食い倒れ」と形

く、関西さらには日本をアピールする絶好の機会として活用しなければなりません。

**福島** 具体的には、(1)訪日外国人旅行者の消費額を増やすこと、(2)訪日外国人旅行者の活動時間を延

大阪を世界有数の  
「MICE戦略都市」に

は、大きな国際会議や展覧会の誘致によってビジネス客を増やした  
いと考えています。

# 話題満載・2019年の関西ツーリズムを展望

**福島** これまで以上にMICEを強化する必要があると考えています。2024年の開業を目指すIRも、MICE機能を拡充する一環と言えるものです。大阪観光局の役割を端的に表現するなら、国際水準のDMOとしてイニシアチブを発揮し、大阪を世界有数の「高付加価値経済MICE戦略都市」に強化していくことです。昔は経験と勘と度胸（KKD）で仕事をしたものが、現在は経験と勘に加えてデータ&デジタルとマーケティング（KKDM）を大切にして顧客満足度を高めていかなければなりません。鉄道網が発達している関西では、3年前から訪日外国人専用の「KANSAI ONE PASS」というサービスを開始して、昨年は20万枚以上を販売しました。訪日外国人の動きを捕捉できるようになり、まさに、デジタルを活用したマーケティングのためのデータとして、広域観光の受入環境整備などにも威力を発揮しそうです。

今年9月に大阪で開催される「ツーリズムEXPOジャパン2019」への期待をお聞かせください。

パンくは以前から大阪へ誘致したいと考えていたイベントで、私自身も「オール大阪での実現」と声高に言つていただけに、大いに期待していますし、是非、成功させなければと考えています。初めて東京を離れて大阪で開催されたわけですから、大阪あるいは関西らしいティエストを打ち出していくべきとも思っています。個人的には、「食」や「笑い」「伝統芸能」「ウェルネス」など、大阪・関西らしさを表現できるような工夫を凝らしたいと楽しみにしています。関西広域連合という行政レベルをはじめ、関西経済連合会や関西経済同友会、大阪商工会議所といった経済界、大阪市や大阪府だけでなく近畿圏の旅行会社や観光関連団体・事業者など、文字通りの「オール関西」で盛り上げるため、動き始めているところができるようになり、まさに、データを活用したマーケティングのためのデータとして、広域観光の受入環境整備などにも威力を発揮しそうです。

パンくは以前から大阪へ誘致したいと考えていたイベントで、私自身も「オール大阪での実現」と声高に言つていただけに、大いに期待していますし、是非、成功させなければと考えています。初めて東京を離れて大阪で開催されたわけですから、大阪あるいは関西らしいティエストを打ち出していくべきとも思っています。個人的には、「食」や「笑い」「伝統芸能」「ウェルネス」など、大阪・関西らしさを表現できるような工夫を凝らしたいと楽しみにしています。関西広域連合という行政レベルをはじめ、関西経済連合会や関西経済同友会、大阪商工会議所といった経済界、大阪市や大阪府だけでなく近畿圏の旅行会社や観光関連団体・事業者など、文字通りの「オール関西」で盛り上げるため、動き始めているところができるようになり、まさに、データを活用したマーケティングのためのデータとして、広域観光の受入環境整備などにも威力を発揮しそうです。

今年9月に大阪で開催される「ツーリズムEXPOジャパン2019」への期待をお聞かせください。

パンくは以前から大阪へ誘致したいと考えていたイベントで、私自身も「オール大阪での実現」と声高に言つていただけに、大いに期待していますし、是非、成功させなければと考えています。初めて東京を離れて大阪で開催されたわけですから、大阪あるいは関西らしいティエストを打ち出していくべきとも思っています。個人的には、「食」や「笑い」「伝統芸能」「ウェルネス」など、大阪・関西らしさを表現できるような工夫を凝らしたいと楽しみにしています。関西広域連合という行政レベルをはじめ、関西経済連合会や関西経済同友会、大阪商工会議所といった経済界、大阪市や大阪府だけでなく近畿圏の旅行会社や観光関連団体・事業者など、文字通りの「オール関西」で盛り上げるため、動き始めているところができるようになり、まさに、データを活用したマーケティングのためのデータとして、広域観光の受入環境整備などにも威力を発揮しそうです。

今年9月に大阪で開催される「ツーリズムEXPOジャパン2019」への期待をお聞かせください。



宇田川支部長「双方向」の観点でアウトバウンドを活性化

## 過去最大となる就航便数でアウトバウンド拡大へ 関経連の「ABCプラットフォーム」にも全面的に協力

JATA関西支部

宇田川雄彦支部長（JTB常務執行役員・関西広域代表）

パンくは以前から大阪へ誘致したいと考えていたイベントで、私自身も「オール大阪での実現」と声高に言つていただけに、大いに期待していますし、是非、成功させなければと考えています。初めて東京を離れて大阪で開催されたわけですから、大阪あるいは関西らしいティエストを打ち出していくべきとも思っています。個人的には、「食」や「笑い」「伝統芸能」「ウェルネス」など、大阪・関西らしさを表現できるような工夫を凝らしたいと楽しみにしています。関西広域連合という行政レベルをはじめ、関西経済連合会や関西経済同友会、大阪商工会議所といった経済界、大阪市や大阪府だけでなく近畿圏の旅行会社や観光関連団体・事業者など、文字通りの「オール関西」で盛り上げるため、動き始めているところができるようになり、まさに、データを活用したマーケティングのためのデータとして、広域観光の受入環境整備などにも威力を発揮しそうです。

アウトバウンド市場の活性化に向けては、いわゆるツーウェイツーリズムの「双方向」という観点で捉えることによって、新しい局面も開けてくると考えています。

関西マーケットの場合、中国というとインバウンド「逆倒と見られがちですが、実は、アウトバウンドも2016年と2017年が対前年102%程度で堅実に推移した後、2018年は10月までの累計で対前年122%という高い伸びを示しています。需要の内訳は業務出張や観察などが中心で、男性

が7割を占め、ほとんどが中高年です。その中国方面では、11月30日に四川航空が西安から週4便で関西国際空港への新規路線を開設しており、女性層も含めたレジャー需要の掘り起しを進められるとうと期待しています。

また、今春の夏ダイヤから関空発の長距離路線として、ブリティッシュ・エアウェイズ（BA）がロンドン線を10年ぶりに復活する予定です。日本航空とのコードシェア便で週4往復を運航しますので、英国のみならず欧州方面への旅行商品造成を強化できます。さらに欧州方面では、フインエアーが2018年冬ダイヤからヘルシンキ線を週5便からデイリー便化したのに続き、2019年夏ダイヤではさらに2019年に一度は大阪あるいは関西で開催できたらと思つてますし、2025年万博に向かって、2021年以降も3~4年に一度は大阪あるいは関西で開催できたらと思つてます。増便しました。

今年の夏ダイヤでは、関空の就航便数が過去最大となる見通しで、関西マーケットにとっては大き

なプラス要素であり、何としてもアウトバウンドの需要拡大につなげていきたい。

さらに、JATA関西支部としては、関西経済連合会が昨年12月から取り組みを開始した「アジア・ビジネス創出（Asia Business Creation）」プラットフォーム」にも全面的に協力していく方針です。この「ABCプラットフォーム」は、アジア各国の機関と連携して企業間でのビジネス創出を加速させようというもので、観光も柱の一つに位置づけられています。

この「ABCプラットフォーム」におけるアウトバウンドの取り組みでは、重要な事項として新デステイネーションの開発を打ち出しており、特に、ミャンマーに着目していきたいと考えています。ミャンマーには昨年5月現在で376社もの日系企業が進出しているほか、日本人渡航者数も2016年の約3万5000人から2017年には3倍近く約9万5000人に増加しており、日本人旅行者は現在ビザも不要なため、伸びしが大きいと考えています。「ABCプラットフォーム」に全面的に協力することで、人とモノの交流による経済効果の最大化や大阪を関西広域周遊のゲートウェイにするなど、アウトバウンドとインバウンドの両面で貢献していく方針です。